

施設と子ども

恵泉第一幼稚園の施設

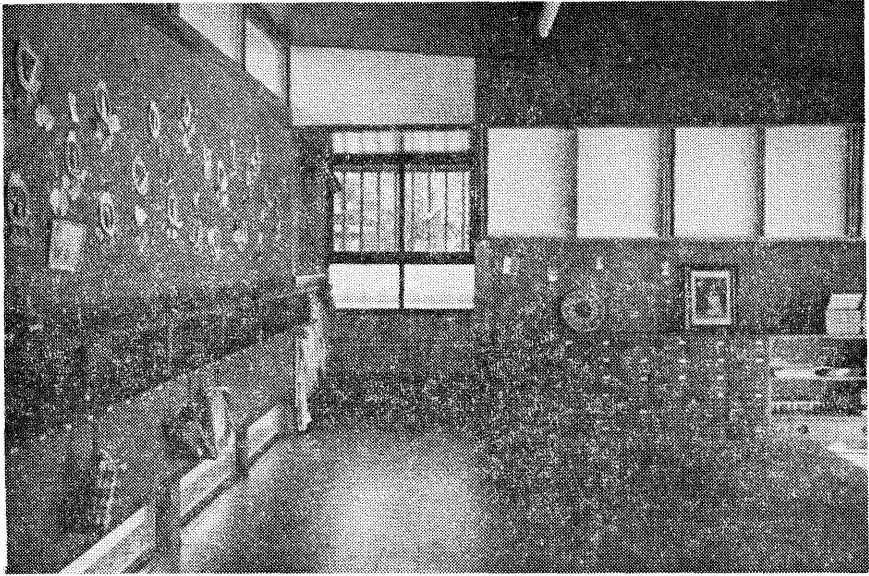
東海道線茅ヶ崎駅から十五分ぐらい歩いて、恵泉幼稚園をお尋ねし、園長の高橋先生から園の施設についてお話を伺いました。

この幼稚園は一九六〇年に、専門家の田中正美さんと、小川信子さんの設計によって建てられました。

分散的配置と保育室

「この建物の変わったところは、今までの幼稚園のように、学校式に一棟に教室がずらりと並んでいないで、一棟に一教室の分散的配置という点です」と高橋先生はまず強調されました。この幼稚園は、二つの保育室と遊戯室、そして職員室など管理系統の室が分散的に配置され、各室は廊下で連絡されています。

渡り廊下は屋根だけで壁がないので屋外のような感じです。職員



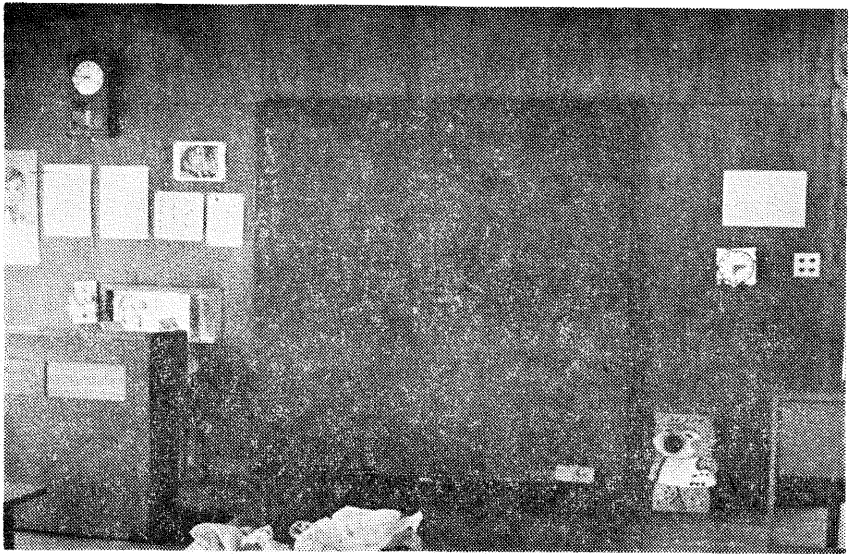
室からは、ガラス越しに各室での園児の様子がよく見通されます。

○分散的配置の理由

個々の幼児は個人差はあるが、年令別には分類する必要があり、組が編成されます。各組には、教育上隣りとの交渉のない環境、組意識のはっきりする場、独立感のある環境が必要です。このように考えてこの配置を思いつかれたとのことです。また独立感と同時に解放的な感じ、「へや」という区割された感じの少ないへやにしたいと思い、周囲をガラス張りにしました。日本人はどうも「とじこもり主義」になりがちなので、明るく、解放的な場を与えたいと考えました。先生のお話通り、一見たいへん明るい感じがしました。各保育室には、一間四方の大きな黒板が床まであり、下の方は子どもたちが自由に使えるようになっていきます。保育室の南隅の空間は、周囲を囲まれて独立した感じがして、ごっこ遊びに最適に思われました。

屋外遊戯場

園舎は、真ん中の屋外遊戯場を中心にしてその周囲に、保育室、遊戯室、職員室などが置かれています。四五坪の屋外遊戯場は一面芝生で、子どもたちは上靴のままここへ出られます。芝生の片隅にはタイル張りのプール、シャワーがあります。子どもたちは、自由遊



びのときは、スベリ台、砂場、ブランコ、回転塔などのある運動場で遊び、ここは主として保育の時に使われるのだそうです。ここは、子どもの健康上、なるべく屋外の生活を多くしたいと考えられて造られたとのこと。この考えから、各保育室にも南側にベランダが附設され、子どもたちは充分に日光欲をしながらリズム遊びなどを楽しむことができます。

便所、洗面所

幼児の教育は、生活指導を中心に行なわれなければなりません。そのため、保育室内に便所、洗面所を置きました。これによって、常に排便、排尿、手洗いなどの生活指導を徹底することができま

す。日本では昔から、便所は汚ない所と考えられてきましたが、この考え方をなくすために水洗にして（浄化槽）、いつも清潔にされています。

便器は、高橋先生が医者として研究された結果、健康上「かがみ式」よりすぐれていて、しかも使いやすい「腰掛式」を採用されたとのこと。〔自然な姿でらくに用をたすことができ、身体内部の諸器官の健康上たいへん良いとのこと。〕全部腰掛式にするということについて、当時父兄からも、先生方からも、「日本の今までの習慣上、どうしてもできない子どもがでてきたらどうしますか」などと反対され、「園内に一つだけでも、かがみ式のものをつくった

ら」と主張されたのですが、子どもの頃から健康な良い習慣をつけるためには、徹底した方がよい、もしどうしてもだめだったらそのときまた考え直そうと押し切られたとのこと。やってみると、子どもは案じたよりも新しいことに早く順応しやすく、困ることは起きませんでした。今では先生がたも喜んでおられるとのこと。

調理室

普通一般の栄養のための給食ではなく、教育のための給食を実施するために、遊戯室の隣りに調理室を設けました。週一回、完全給食を実施し、食事指導はこのときに主として行なわれます。よくかむこと、行儀よく食べること、スプーン、フォークの持ちかた、きれいな物でも食べられるようなど。主食はパンが多いのですが、御飯のときもあり、どちらの場合も、スプーンとフォークを用いています（お弁当のときは、箸の子も、スプーンの子もまちまちですが）。調理はおかあさんがたが五人ずつ当番でなされ、栄養士のかたが、時折献立指導に來られます。

応接室兼観察室

ふだんは応接セットの置かれてある応接室は、問題児の相談などがある場合観察室に変わります。この場合は、応接セットを外に出



